

有名詞ではなく、愛情をこめて、私のむすこというほどの意」(六六七頁)である。以下、原文・訓・口語訳のみを載せる。なお、原文及び口語訳は、大方を、小島憲之・山本登朗両氏の『菅原道真』(研文出版)を引用し、筆者が若干の加筆を施してみた。

「117 夢阿滿」

原文

- 1 阿滿亡來夜不眠
- 2 偶眠夢遇涕漣漣
- 3 身長去夏餘三尺
- 4 齒立今春可七年
- 5 従事請知人子道
- 6 讀書暗誦帝京篇
- 7 藥治沈痛纒旬日
- 8 風引遊魂是九泉
- 9 余後怨神兼怨佛
- 10 當初無地又無天

初讀寶王古意篇

訓読

- 1 阿滿亡せにしより 夜眠れず
- 2 偶たま眠れば 夢に遇ひて涕漣漣たり
- 3 身長は去にし夏 三尺に余れり
- 4 齒立ちて今春 七年可り
- 5 事に従ひては知らんことを請ふ 人の子の道
- 6 書を読みては暗誦す 帝京篇
- 7 薬の沈痛を治めしことは纒かに旬日
- 8 風の遊魂を引きしは是れ九泉
- 9 余後 神を怨み兼ねて仏を怨む
- 10 当初 地無く又天無し

初め寶王の古意篇を読みたりき